

2022年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題 法律科目試験

(刑事訴訟法)

次の(設例)を読んで、問(1)、(2)に答えなさい。

(設例)

- 1 X警察署警察官Kらは、令和3年5月1日午後9時頃、X市内の公園において、半裸の男(甲)が叫んでいるとの110番通報を受け、同所に臨場したところ、甲に覚醒剤常用者の特徴があったため、甲に対し警察署への任意同行及び尿の任意提出を求めたが、甲から拒否された。そこで、Kらは、以上の状況を記載した捜査報告書を疎明資料として、甲の身体から尿を差し押えることを目的とする捜索差押許可状(「本件強制採尿令状」という。)の発付を得て、同日午後11時頃、上記公園で甲に本件強制採尿令状を呈示した。しかし、甲がなおも病院や警察署への同行を拒否したことから、①Kらは、抵抗する甲を警察官3人がかりでパトカーに押し込み、最寄りのY病院にまで甲を連行した。Kらは、同日午後11時30分頃、同病院において、甲から採尿し、速やかに一旦甲を帰宅させた。
- 2 Kは、上記尿から覚醒剤成分が検出されたので、同月7日、甲を覚醒剤取締法違反(覚醒剤使用事実)で通常逮捕した。Kは、甲の自宅を捜索したが覚醒剤を発見できなかったため、ほかのどこかに隠し持っていると疑い、取調べにおいて甲を追及した。しかし、甲は、「覚醒剤は全部使い切った。もう持っていない。」旨主張するばかりであった。そこで、甲が交際相手乙女と頻繁に会っていたとの情報を得たKは、乙を取り調べた事実もないのに、「乙を取り調べたら、乙は、君と先月会った際に君が覚醒剤を持っているのを目撃したと供述した。」と虚偽を甲に告げた上、乙方に覚醒剤を隠匿していないか質問した。甲は、そのKの言葉を信じるとともに、乙が共犯であると疑われるのをおそれ、「乙に覚醒剤を目撃されたなら隠し通せないですね。しかし、乙は私の覚醒剤の事件とは無関係です。②私が使った残りの覚醒剤は実家の押入れに母に黙って隠しています。」旨供述した。Kは、この供述内容を調書に録取した上で、令状に基づき甲の実母丙方を捜索したところ、甲が供述したとおりの場所から覚醒剤約10グラムを発見した。後に、甲は、覚醒剤取締法違反の事実(覚醒剤使用事実及び前記覚醒剤約10グラム所持事実)で起訴された。

問(1)(配点:25点)

下線①の警察官Kらの行為の適法性について論じなさい。公園での留め置きも含め本件強制採尿令状は適法に発付されたものとする。なお、同令状には、条件欄に「強制採尿は、医師をして医学的に相当と認められる方法により行わせなければならない。」と付記されているが、病院等までの連行の可否についての記載はないことを前提とする。

2022年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題 法律科目試験

(刑事訴訟法)

問(2) (配点: 25点)

自白の定義、自白法則の根拠条文及び同法則の趣旨を論じた上で、被告人甲の公判において、甲による前記覚醒剤約10グラムの所持事実の立証のために、下線②の甲の供述を用いることができるか論じなさい。